

事務事業名	スポーツ教室運営事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名		
施策名	4	生涯スポーツ・レクリエーションの振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和52 年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
法令根拠	スポーツ基本法						
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	5. 保健体育費	1. 保健体育総務費			
事業概要	市民ひとり1スポーツの定着化を目指し、生涯スポーツの推進とスポーツ人口の底辺拡大を図るため、市民各層に対応できるよう、初心者を対象としたスポーツ教室を開講する。 平成30年度開講教室（16種目・26教室） スポーツ吹き矢・こども体操・こどもバドミントン・親子ショートテニス・フットサル・親子卓球・筋力トレーニング・弓道・健康ストレッチ&トレーニング・わんぱく親子・女性水泳・ミニバスケットボール・ショートテニス・トレーニング・親子サッカー・エアロビクス・ノルディックウォーキング・ZUMBA・ドッジボール 終了後継続的に行うため、既存の愛好会の紹介を行っている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 30年度実績 開催種目数（16種目・26教室実施） 実施種目の選定・対象者・内容・時期・回数を決出し、講師に依頼する。 参加者の募集。 講師に指導計画、実施内容の報告書の提出。 教室終了後、参加者にアンケート調査を実施。  31年度計画 前年度に同様 開催予定種目数（19種目・28教室） 前年と比較すると、3種目・2教室増	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア	謝金	千円	1,062	1,043	914	888	1,128
	イ	種目数	種	18	19	15	16	19
	ウ	応募者人数(定員)	人	808	806	726	721	796
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民、児童及び市内勤務者	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア	市民数	人	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324
	イ	児童数	人	4,629	4,612	4,520	4,479	4,480
	ウ	市内勤務者数	人	12,923				
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市民ひとり1スポーツの実現を目指すため。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア	参加人数	人	657	559	493	439	557
	イ	申込者の割合（定員に対する申込数）	%	81.3	69.4	65.2	60.9	70.0
	ウ							
エ								
オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） スポーツ人口の底辺拡大を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
	ア	スポーツレクリエーションをしている市民の割合	%	47.3	60.7	59.3	58.5	
	イ							
	ウ							
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,213	1,174	971	959	1,128	
	事業費計(A)	千円	1,213	1,174	971	959	1,128	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	280	280	280	280	280
		人件費計(B)	千円	1,173	1,163	1,162	1,167	1,167
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,386	2,337	2,133	2,126	2,295	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和52年総合体育館完成に伴い開始した。 スポーツ人口の底辺拡大を図り、市民ひとり1スポーツの定着を目指すため。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	自由時間の増大及び高齢化社会への進展など社会環境の変化に伴い、健康・体力づくり・スポーツに対する関心が高まっている。 小学生や女性の参加者の割合が、多い傾向にあった。 競技スポーツから健康スポーツに種目が変更になった。 親子参加の種目を多く取り入れるようになった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	種目によっては、実施日数の増加や開催曜日・時間帯の変更要望がある。 初心者対象以外の教室（競技力向上等）の開催要望がある。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある スポーツをする機会の提供により、スポーツの日常化が図られ、生涯スポーツの振興に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民の健康、体力づくり活動に不可欠な生涯スポーツ振興のため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市民・児童及び市内勤務者を対象にスポーツ教室を開催し、スポーツ人口を増やしている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 市内小学校へのチラシ配布、また市のホームページやおおかテレビ等、広報・メディア等を通じ、スポーツ教室のPRに努め参加者の増加を図っている。 また、市民ニーズに対応した種目の検討を行っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない スポーツ人口の底辺拡大が図れなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない スポーツ部門は、他に類似事業がない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費の大部分は、講師謝金であり削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 教室運営を委託するなど、職員の休日出勤や時間外の削減を図る。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある スポーツ振興のために行っている事業で、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 教室の運営を委託することで、業務時間の縮減を図る。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？ 19種目、28教室を開催するうえで、職員の休日出勤、時間外の削減をどう図るか。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							